

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立北明小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については「家庭週間」が定着し、家庭との連携も図られ、学習状況調査において良い結果が出た。学習規律についての共通理解などにより、落ち着いた学習できる環境が整ってきている成果だと捉える。保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 ・本校児童の課題について全職員で共通理解を図り、課題解決の方策を考え取り組んでいった。あいさつ、表現力などの課題も対応策による取組により改善してきている。また、支援を要する児童についても特別支援コーディネーターを中心に共通理解や日頃の情報交換を活発にした。そのことが安心して学べる場づくりにつながっていったと考える。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、重点的な取組月間を設けたり、定時退勤日を設定したりした。意識の向上が見られ、時間外勤務時間は減ってはきている。心身の健康、子どもと向き合う時間の確保などについても更に意識し、職員が充実感を持って働ける職場づくり、業務改善などの手立てを図っていく必要がある。 ・地域や家庭との連携、協働の精神による児童の育成に向けて、情報発信については課題が残った。いかに、学校の取組を発信していくか手立てを考えていく必要がある。
---------------	--

2 学校教育目標	<p>学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ輝く北明っ子の育成</p> <p>◇ かしこく(知)：確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく(徳)：やさしい心・人と関わる力を培う ◇ たくましく(体)：健康で元気な態度を育む</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生き生きと学習に取り組み、自分の考えや思いを伝え合い、学び合う児童の育成。 ○人と協調し、人を思いやる心の育成○人と関わる力の育成○感謝する心と学校や郷土を愛する心の育成 ○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進○食育の推進と性教育の実施○防犯・安全教育の推進○特別支援教育、教育相談の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全職員でマイプランを共有する。 ・校内研修で取組内容・進捗状況を交流し促進を図る。 ・相互に授業を参観し各自の取組の参考にする。	A	・11月の相互参観は実施できなかったが、学校訪問前にお互いに授業を見せ合い、意見交換をしたり、初任研修授業を計画的に実施したり、授業改善に努めることができた。また、ミニ学習会も数回実施した。 ・学力向上研修会を開き学力の現状把握と改善点について共通理解できた。 ・マイプランの達成率は83%であった。
	○様々な場での交流活動の充実と表現力の向上	○「自分の考えを友達に伝えることができる」と答える児童の割合を50%、「グループや全体の場で自分考えを説明することができる」と答える児童の割合を80%以上にする。	・各教科で、資料等を基に自分の考えをまとめたり、交流・説明したりする場を意図的に設定する。 ・授業相互参観週間を設定し、授業改善を図る。	A	・2月アンケートの結果も7月とほぼ変わらず、「よくなる」と答えた児童は36%と3%の微増にとどまった。 ・考えを「概ね伝えることができる」と答えた児童は80%であった。 ・教師の評価では、「身につけさせたい力・基礎基本の定着、学力向上を意識した授業実践がよくなった」との項目で、それぞれ26%・19%の伸びが見られた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施し、意識を高める。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・「たすきコーナー」(児童の認め合い)や道徳コーナーを効果的に活用し、児童の自己肯定感を高める。	A	・12月に道徳に関するアンケートでは、1つの項目以外は肯定的な回答をした児童生徒が90%を超え、7月より改善が見られた。 ・道徳科の授業づくりに関する研修会を年間7回実施することができた。教員間で共通理解を図る必要がある項目を、確認し合うことができた。 ・行事や集会後のふり回りカード「たすきカード」を掲示するだけでなく、放送で紹介することで、児童の意欲や自己肯定感を高めることができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・定期的なアンケートや、心のチェックシートにより児童の実態把握に努める。 ・いじめの対応についての研修・会議を長期休業中および随時行う。	A	・後期のかやく北明っ子教師のふり回りでは、いじめ・差別防止に努めたと肯定的に答えた教員は、前期同様100%であった。 ・11月実施のいじめアンケート後に、教育相談週間を設定し、担任による児童への聞き取りを十分に行い、校内いじめ対策委員会を実施した。 ・毎月のアンケート結果と本人、保護者から気になる訴えがあった場合は、職員連絡会などで共通理解を行い、組織での対応に努めた。
	◎目標の実現に向けて努力し、充実した学校生活をおくろうとする気持ちを高める教育活動	◎自分の目標やめあてに向かって努力していると答える児童 80%以上 ◎学校生活が楽しい、充実していると答える児童90%以上	・学習の時だけでなく、様々な活動の折には目標やめあてを立て、それを振り返る活動を通して、自分自身の成長を感じられるようにする。 ・児童が活躍できる場を多く設定して自己有用感を高めたり、友達と関わる活動を多く組んだりして、共に活動することのよさを感じられるようにする。	B	・保護者アンケートでは、前期とほぼ変わらない数値を示していた。保護者にとって、「夢や目標に向かって努力する気持ちを高める教育」という文言が、具体的なイメージとして持ちにくいこと、また、教師も学期ごとや様々な活動ごとに目標やめあては立てているものの、「夢や目標に向かう児童」の姿が個々人と異なっていて、共通理解の必要性を感じた。今後に向けて、研修の場を設定し、共通理解を図っていく。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%以上	・給食委員会による毎日の放送や給食集会を通して食に対する意識を高める。 ・栄養職員と連携し、各学年食育の授業を1時間以上実施する。 ・食育標語に全校で取り組み食に対する意識を高める。	A	・給食委員会が中心となり、ペーパーサートやクイズ等を使って食事の大切さを啓発した。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」調べを前期と後期に1週間ずつ行った。 ・食育標語を全学年に募り、優秀作品について集会で表彰を行った。 ・以上の取り組みの結果、「給食は好き嫌いせず残さず食べた」と答えた児童は95%であった。 ・全児童が、健康に食事は大切であると実感している。
	○安全に関する資質・能力の育成	○登下校において、自分で安全に気を付けていると答える児童80%以上 ○避難訓練において、自分で考えて行動できたと答える児童80%以上。	・登校班長会議を行い、意識を持たせる。 ・避難する際の注意事項について事前指導を行い、訓練後には自分の行動について振り返らせる。	A	・登校班長会議や地区別下校の際に注意点を確認したり、日常的な安全指導を継続したりしてきたことで、安全に気をつけて登下校できた児童が9割を超えた。 ・事前指導を行った後に避難訓練(不審者・火災・地震)を行った。特に地震に対する訓練では、たて割り班で避難をするなど、児童主体の訓練も行うことができ、9割以上の児童が自分でも考えながら避難することができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校行事の内容や、準備に係る時間の見直しを行う。 ・定時退勤日の設定、掲示物やモニターに活用した意識の向上を図る。 ・メンタルヘルス、サービスの研修とともに働き方改革についても研修を行う。	B	・学校行事の見直しや、業務や対応のマニュアル化は進み、次年度へ向けて、効率的な学校運営の基盤を作ることができた。 ・感染症対策や不測の事態への対応で特に管理職の時間外勤務が多く、時間外勤務の平均時間は昨年度並みにとどまったが、職員の意識は向上し、時間外勤務45時間以上の人数は減少した。しかし、「業務の効率化ができたか」の項目では、あまりできていないとの回答が23%あったことから、引き続き、改善点を検討していく必要がある。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
○特別支援教育の充実	○支援が必要な児童への適切な支援についての全職員による共通理解と実践	○年2回、職員に対して意識調査を実施し、特別支援体制が機能していると答える職員が80%以上を目指す。	・個別の教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議を開催し、情報共有を図る	A	・特別支援教育について専門性が向上した教員90%。 ・個別の教育支援計画、指導計画の作成、振り返り、改善案が作成され生かされた。 ・特別支援教育研修会は、合理的配慮、基礎的環境整備や授業研など年2回実施。児童理解研修は、月1回実施できた。 ・ケース会議は、適時開催し、情報共有と対応ができた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上についてはマイプランを共有し、授業相互参観やミニ学習会など教師の学びの場を設定することにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上を意識した取組の成果だと捉える。保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 ・本校児童の課題である表現力の向上、自主的な活動についても、教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んでいった。交流活動の意識的な取組により表現力は改善してきている。しかし、自主的な活動については課題が残った。児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進めていく必要がある。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、会議時間の短縮・マイ定時退勤日のボードを準備するなど意識化を図った。意識の向上が見られ、時間外45時間以上勤務者は減ってきている。校時や行事内容の見直しなど業務改善の手立てをとるとともに、職員が充実感を持って働ける職場づくりをめざしたい。 ・学校運営協議会を中心に、子供連を地域で支えていく体制ができている。さらに地域力を生かす、保護者とともに教育活動を行っていくためにも、保護者との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。 ・個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより今後も、個に応じた支援・指導を充実させていきたい。
----------------	--